

4. ディスカバリー(可視化)機能

本動画の 目的

- プロセスマイニングによって、業務がどのように可視化されるかを知る
- プロセスマイニングツールを活用した際にどのような項目が可視化されるかを知る

目次

1. プロセスのディスカバリー(可視化)とは
2. プロセスマイニングにおける可視化とは
 - 2-1. プロセスマイニングを始める前に確認すべきこと
3. プロセスマイニングツールを活用した可視化
 - 3-1. 概要
 - 3-2. プロセスマイニングツールでの分析の流れ

プロセスの可視化とは？

プロセスの可視化とは

業務プロセスの特徴や改善点を浮き彫りにし、

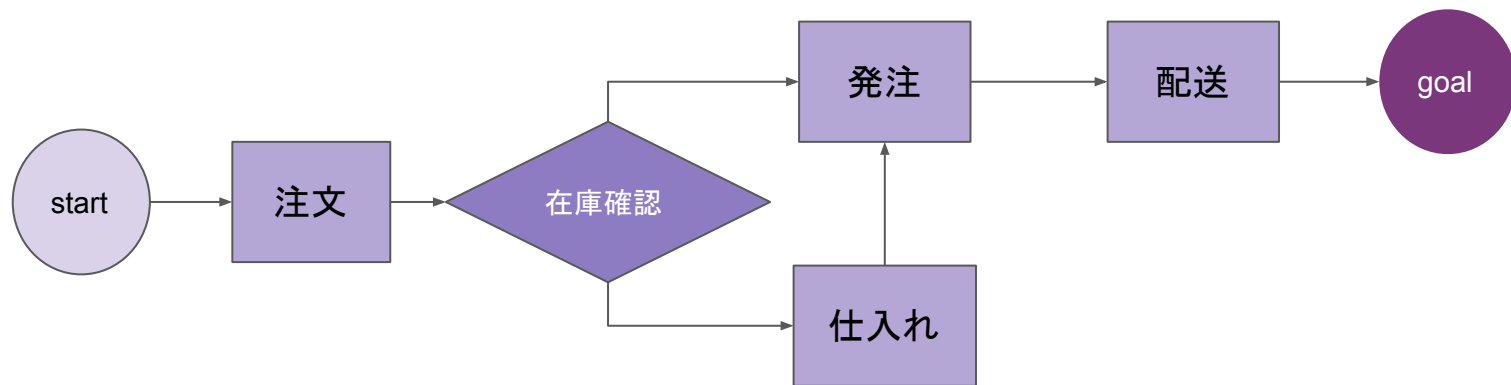
誰がみても同じように理解することができるよう

フローチャートなどを用いて表現・共有できるようにすること

プロセスマイニングにおける可視化とは？

プロセスマイニングにおける可視化

業務プロセスのスタートからゴールまでを**時系列**で表現



業務プロセスの状態や特徴を把握するため、実施されたアクティビティ（業務を構成する処理やタスク）を**時系列で繋げたフロー図**として再現

【活用事例】

商品発注システム、工事状況管理システム

プロセスマイニングでの分析の流れ

プロセスマイニングを始める前に

各プロセスの概要を把握・理解する

【確認項目】

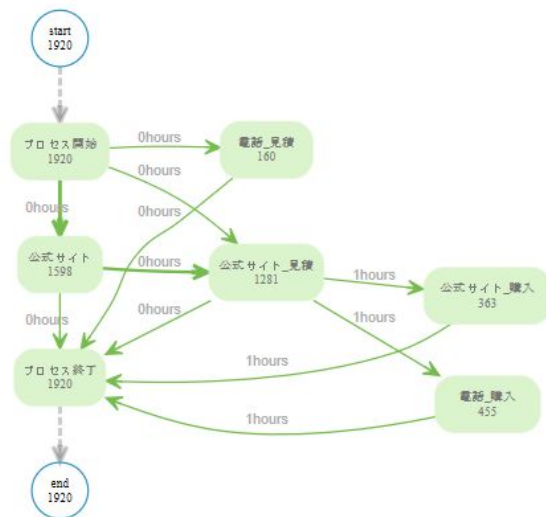
1. プロセス名称（アクティビティ名）
2. ビジョン（プロセスの目的・ゴール）
3. プロセスの関係者
4. プロセスの成果を享受する人
5. 顧客の期待（プロセスに対して求めていること）
6. 開始・終了アクティビティ
7. 各プロセスの評価指標（プロセスの結果に対する良し悪しを決める判断軸）

各アクティビティを把握・理解し、プロセス可視化後の課題発見や根本原因探索の道筋とする

プロセスマイニングツールを活用した可視化

時系列に基づいたプロセスデータによって自動的に「プロセス」が可視化できる

画像:「みんなのプロセスマイニング」より



【可視化項目】

- ・プロセス名称(アクティビティ名)
- ・所要時間(スループットタイム)
- ・ケース数
- ・プロセス間の遷移状況

など

ケースを発生頻度順に表示させ、**プロセスの特性やリワーク**を確認

プロセスマイニングでの分析の流れ



1. データ準備 (「可視化に必要なデータセット」で説明)

2. プロセスモデル可視化

- 2-1. バリエーション分析 (頻度分析)

- 2-2. パフォーマンス分析 (所要時間に着目した分析)

- 2-3. リワーク分析

3. 根本原因探索

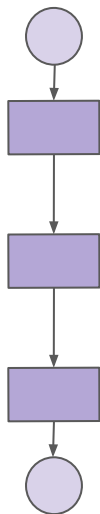
4. 改善案検討

2-1. バリエーション分析(頻度分析)

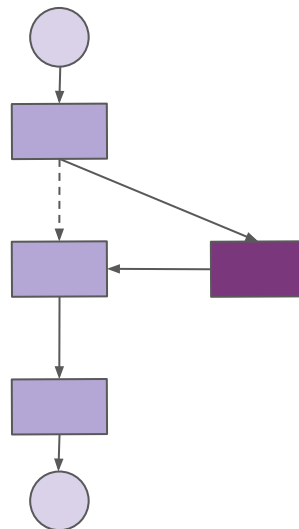
バリエーション分析(頻度分析)

バリエーションエクスプローラーによって、発生頻度順に並べてプロセスの特性を分析

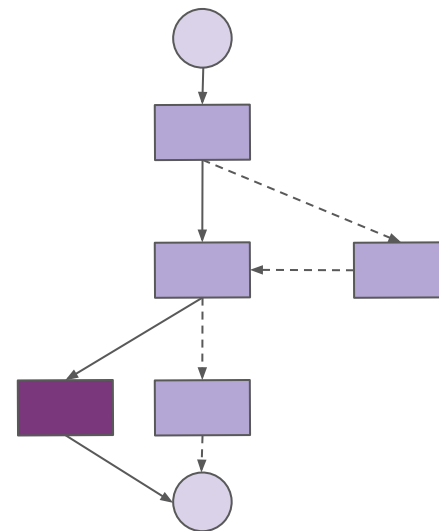
ハッピーパス
(発生頻度第1位のプロセス)



発生頻度第2位のプロセス

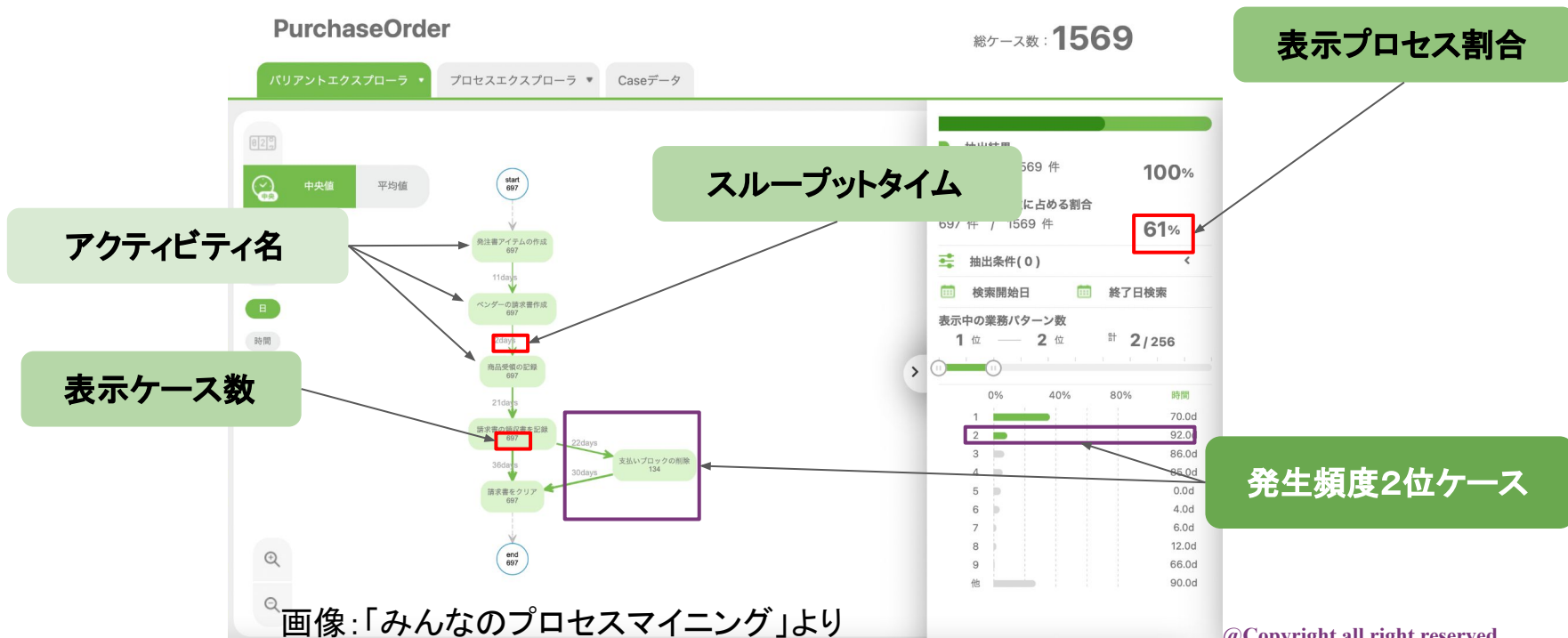


発生頻度第3位のプロセス



バリエーション分析(頻度分析)

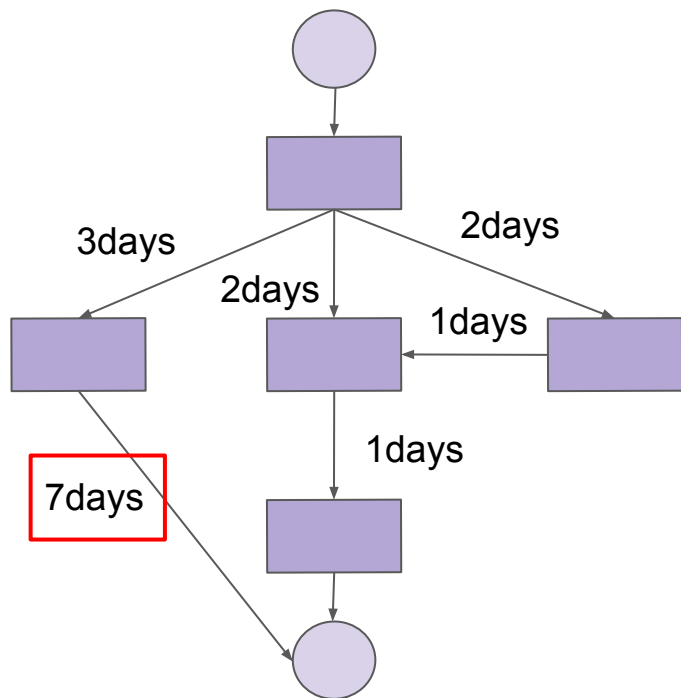
バリエーションエクスプローラーによって、発生頻度順に並べてプロセスの特性を分析



2-2. パフォーマンス分析(時間軸分析)

パフォーマンス分析（所要時間に着目した分析）

プロセスエクスプローラーによって、プロセス間の**所要時間**から業務改善の道筋を探る

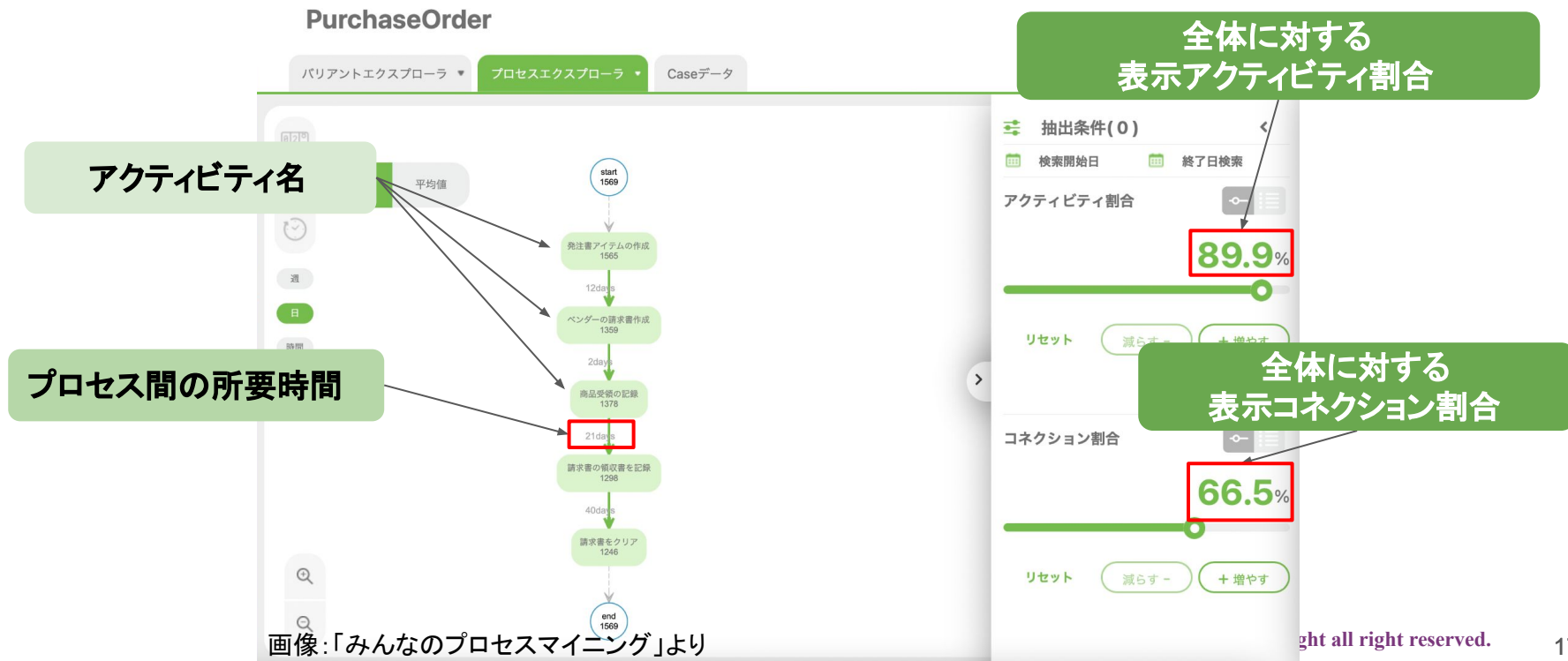


【目的】

- ① ハッピーパスと比較し、所要時間が長いアクティビティを確認するため
- ② **工数/費用削減に繋がる業務**を発見するため
- ③ 手戻りが発生している業務と関連づけて、**ボトルネック**を特定するため

パフォーマンス分析（所要時間に着目した分析）

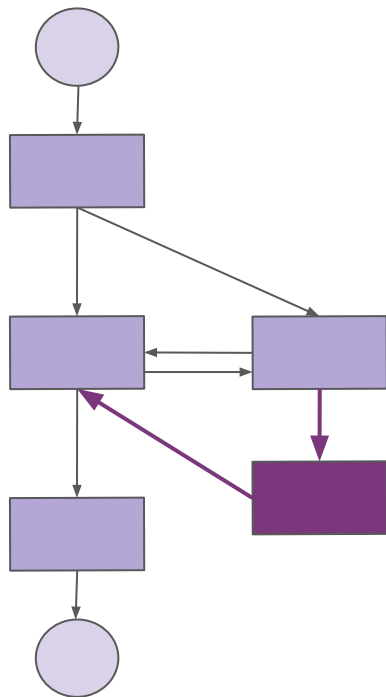
プロセス間の**所要時間**から業務改善の道筋を探る



2-3. リワーク分析

リワーク分析

何回も繰り返し・やり直しが発生している業務から、**工数/費用削減に繋がる業務**の発見



【目的】

- ①想定よりもスループットタイムが長い時 **原因**となる業務を分析
- ②**工数/費用削減**可能な業務の発見
- ③**リワークが必要不可欠**な業務の発見
(再度確認作業が必要な業務など)

3. 根本原因探索

3. 根本原因探索

可視化によって明らかになった課題に対し、様々な分析・観点を掛け合わせて根本原因を探索

どのような問題が発生しているか

バリエーション分析

業務のばらつき
(属人・例外処理)

パフォーマンス分析

待ち・遅れ

リワーク分析

やり直し

根本原因の探索

- ・関係者へのヒアリングやディスカッション
(例:なぜ特定の業務でやり直しが発生しているか？
について関係者でワークショップを実施)
- ・ケースデータを活用した分析
(例:納期遅れが頻発する取引先はどこか？
について関連データを深堀)

(注)ケースデータ:「可視化に必要なデータセット」参照

プロセスマイニングツールによって原因探索についての機能は異なるので注意が必要

APMI 